

施策マネジメントシート1(24年度目標達成度評価)

作成日 平成 25 年 6 月 14 日
更新日 平成 25 年 10 月 7 日

総合 計画 体系	政策No.	4	政策名	みんなで元気に笑顔あふれるまちづくり	施策統括部	健康福祉部	部長名	青木 洋治
					施策主管課	子育て支援課	課長名	中嶋 万喜
	施策No.	19	施策名	子どもを見守り、育てる地域づくり	関係課	健康づくり推進課、学校教育課、生涯学習課、人権啓発教育課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
子育て世帯

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
子育てに思い悩むことが少ない

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 15歳未満の子を養育している世帯数	世帯
B	
C	
④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 子育てに関する悩みを抱える世帯の割合	%
B 子育てのための経済的負担が大きいと感じる世帯の割合	%
C 子どもの安全(犯罪、非行など)に不安を感じる世帯の割合	%
D 子どもの教育環境(いじめなど)に不安を感じる世帯の割合	%
E	

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

市民意識調査により把握。
A: (15歳未満の子どもを持つ親を対象に)あなたは、子育てに関する不安感や負担感を感じていますか？(1と2の合計の割合)1. 非常に感じる 2. やや感じる 3. あまり感じない 4. 全く感じない
B、C、D: あなたが子育ての上で特に不安に思っていること、悩んでいることは何ですか？(Aの回答者に占める各選択肢の割合)1. 子育てのための経済的負担が大きい 2. 子育てのため、精神的、身体的に負担が大きい 3. 子育てのため、自由な時間がとれない(趣味や学習活動、外出、遊興など) 4. 子育てのために仕事に出られない、希望する仕事につけない、家業が思うようにできない 5. 子育てのことで家族が理解してくれない 6. 子育てのための十分な生活環境が整っていない(住居、遊び場、交通など) 7. 子育てについて職場の理解が得られない 8. 子育てについて気軽に相談する相手がいない 9. 子どもの進路(進学、就職など) 10. 子どもの発育、健康 11. 子どもの教育環境(いじめなど) 12. 子どもの安全確保(犯罪、非行など)

2 指標等の推移

指標名			単位	数値区分	21年度現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対象指標	A	世帯	見込み値			5,370	5,390	5,400	5,400	5,400
			実績値			5,293	5,769			
	B		見込み値							
			実績値							
	C		見込み値							
			実績値							
成果指標	A	%	成り行き値			75.1	75.1	75.1	75.1	75.1
			目標値			75.0	74.5	74.0	73.5	73.0
			実績値	75.1	71.1	63.3				
	B	%	成り行き値			50.6	50.6	50.6	50.6	50.6
			目標値			50.0	49.5	49.0	48.5	48.0
			実績値	50.6	62.3	57.6				
	C	%	成り行き値			31.9	31.9	31.9	31.9	31.9
			目標値			31.5	31.0	30.5	30.0	30.0
			実績値	31.9	39.2	37.1				
	D	%	成り行き値			16.7	16.7	16.7	16.7	16.7
			目標値			16.5	16.0	15.5	15.0	15.0
			実績値	16.7	17.7	21.7				
	E		成り行き値							
			目標値							
			実績値							
事務事業数				本数	65	56	53	51	49	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		1,499,048	1,476,677	1,566,557	1,595,008	1,635,456
			都道府県支出金	千円		796,474	595,175	853,061	618,128	627,232
			地方債	千円		0	0	0	0	0
			その他	千円		535,919	448,324	462,820	474,535	474,535
			繰入金	千円		0	0	0	0	0
			一般財源	千円		1,153,661	1,222,208	1,335,074	1,214,912	1,240,728
			事業費計（A）	千円		3,985,102	3,742,384	4,217,512	3,902,583	3,977,951
			（A）のうち指定経費	千円		3,314,670	3,384,872	3,556,505	3,633,578	3,709,514
			（A）のうち時間外、特殊勤務手当	千円		3,301	3,560	4,221	2,841	2,841
			延べ業務時間	時間		22,922	23,884	20,607	20,297	20,237
	人件費	人件費計（B）	千円		92,523	97,221	80,660	79,408	79,166	
	トータルコスト(A)+(B)				千円		4,077,625	3,839,605	4,298,172	3,981,991
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠 (水準の理由と前提条件)					A: 子育てに関する悩みを抱える世帯の割合について、成り行き値は、B、C、Dの成り行き値を考慮すると、現状のままで推移すると考えられるので、平成23年度からの成り行き値を75.1%と設定した。目標値については、トータルのな子育てに関する悩みを抱える世帯の割合はあまり変化がないと考えられることと、B、C、Dの目標値を達成することを前提に、少しは向上すると判断し、平成27年度には73.0%となると設定した。これらを実現するには、地域における取り組みが前提条件となる。 B: 子育てのための経済的負担が大きいと感じる世帯の割合については、成り行き値は、短期的には変わらないと判断して、平成27年度においても平成21年度と同水準で推移すると設定した。目標値は、国が行なう高校の授業料の無償化や、こども医療費助成を平成21年7月診療分から小学校6年生まで拡大したこと、平成22年度から子ども手当（0歳から中学3年まで1人あたり月額13,000円）の支給が開始されることを考慮しても、国の経済情勢に影響されることが大きいことを踏まえると、大幅な好転は見込めないと判断し、平成23年度の50%に比べ、平成27年度目標値を48.0%と設定した。 C: 子どもの安全（犯罪、非行など）に不安を感じる世帯の割合については、成り行き値は、社会情勢を勘案するとあまり変化しないと予想され、平成27年度まで31.9%で推移すると設定した。目標値は、子ども見守り隊（安全パトロール隊）など地域ぐるみの取り組みを協力的に支援することで、不安を解消できると考えますが、現状値でも高い水準にあると考えられるので、平成25年度までは少し向上するところで設定し、平成26年度からは30%を維持していくことを目標値として設定した。					
					基本計画期間における施策の方針					①安心して子育てができる環境を整備する。 ②子育て支援体制、相談体制をさらに整備する。 ③市民との協働によって地域における子育ての水準を引き続き高める。

施策マネジメントシート2(24年度目標達成度評価)

子どもを見守り、育てる地域づくり

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・地域は、地域の子どもの見守り、子育て相談、交流会等を推進する。
 - ・企業、事業所は、子育て家庭が子育てと仕事の両立ができるような支援体制を充実させる。(育児休業制度の実施など)
 - ・市民は、地域とともに、子どもを見守り、育てる。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・市は、共働きの子育て家庭が仕事と子育ての両立ができるよう施設の充実を図る。
- ・市は、子育てに関する経済的支援を行なう。
- ・市は、子育てに関する相談支援体制の充実を図る。
- ・市は、子育て支援サービス事業(延長保育、休日保育、病後児保育、ファミリーサポート、学童保育、つどいの広場、子育て支援センター、子育てサロン等)の充実を図る。
- ・国と県は、企業、事業所等に対して子育て家庭の親が子育てと仕事の両立ができるような労働条件の整備を図る。

【2】施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成27年度を見越して)

- ・社会的な不況により子育て家庭の共働きが増えてきている。そのため認可保育所及び学童クラブへの入所希望等が増加すると考えられる。また仕事と子育ての両立のための病時・病後児保育についても、ニーズが拡大すると予想される。
- ・家庭児童相談、児童虐待相談等の児童に関する相談等が増加傾向にある。
- ・若い世代における離婚の増加により、ひとり親家庭が増加傾向にある。
- ・71人以上の大規模学童保育クラブについては、安心・安全な保育を行うため適正規模への分割が必要である。
- ・平成22年度から児童手当制度が廃止され、子ども手当(0歳から中学3年までの子どもを養育している者に対して子ども1人当り月額13,000円)が新設された。
- ・平成25年度から待機児童解消加速化プランが実施されている。

【3】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・議会から待機児童解消の対策について一般質問があった。
- ・保護者から保育所に入所したいが空きがないという声があった。

【平成24年度の施策評価(23年度振り返り)における議会意見】

1. 待機児童が後を絶たない。開発・転入等から、今後の保育所・学校・環境を計画的に整備する長中期計画を策定すべきである。
2. 母子家庭の自立支援のために、当事者の意見・要望を聞き対応すべきだ。

【平成24年度の施策評価(23年度振り返り)における総合政策審議会意見】

1. 市民との協働により、地域での支援体制を推進すること。
2. 市が行なう子育て支援については、特に保育体制の更なる充実を図っていくこと。
3. 保護者に対して、権利だけではなく、親としての義務もあることを理解させる必要がある。

4 施策の評価

【1】施策の目標達成度(24年度目標と実績との比較)

- A → ○【子育てに関する悩みを抱える世帯の割合】
- ：目標値74.5%に対し実績値63.3%であり、目標は達成できた。
- B → ×【子育てのための経済的負担が大きいと感じる世帯の割合】
- ：目標値49.5%に対し実績値57.6%で、達成率は85.9%であった。
- C → ×【子どもの安全(犯罪、非行など)に不安を感じる世帯の割合】
- ：目標値31.0%に対し実績値37.1%であり、達成率は83.5%であった。
- D → ×【子どもの教育環境(いじめなど)に不安を感じる世帯の割合】
- ：目標値16.0%に対し実績値21.7%であり、達成度は73.7%であった。

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

- A: 子育て支援施策の充実により目標が達成できたと考えられる。
- B: 子ども手当から児童手当に移行し、1人当たりの支給額が減額になったことや所得制限が設けられたこと等が原因と考えられる。
- C: こどもが被害にあう事例が後を絶たない。
- D: いじめの問題が大きな社会問題となっている。また、体罰問題も取り上げられており、不安を感じる世帯の割合が上昇したと考えられる。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(ー5%程度) ×:目標を未達成

【2】施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

- (1) 平成24年度経営方針である、①「子育て支援事業内容の周知啓発を努める。」については、「子育て支援ガイドブック(改訂版)」を作製し、転入時や出生届け時等に配布し啓発に努めた。また、市のホームページ上の「子育てサイト」にも情報を掲載し、情報の提供を行った。
- ②「地域と連携した子育て支援を行っていく。」については、こども110番の家、地域のボランティアによる見守りなどを通じ、ちいきでの子育て支援を行った。また、子育て中の親子が孤立しないようつどいの広場や地域のボランティアなどによる子育てサロン等を実施し、地域での子育て支援を行った。
- (2) 事務事業貢献度評価の結果では、平成24年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、保育所入所等措置事業、放課後学童保育事業があげられ、貢献した事務事業には、延長・休日保育助成事業、学童クラブ等障がい児受入事業、つどいの広場事業、ふれあい館子育て支援センター運営事業があげられた。

【3】 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・待機児童の解消のため、早急な認可保育所及び学童クラブ室等の施設整備が必要である。
- ・ひとり親家庭の経済的自立を図るのため、就業支援等の推進が必要である。
- ・児童虐待、DV相談などに対応するため、相談支援体制充実及び関係機関の連携強化が必要である。
- ・経済的支援を望む世帯が多いが、継続的な支援を行うためには、自主財源の確保が必要である。また受益者の一部負担についても今後検討が必要である。

5 施策の24年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて…平成25年7月8日)

- ・引き続き待機児童(保留児童)対策に取り組むことが必要。
- ・子どもを見守る地域体制づくりを支援していくことが必要。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成25年8月20日、8月26日、9月4日まとめ)

- ・地域のつながりが地域の子どもの見守りにつながるよう、行政・学校・家庭の連携と環境整備をすること。
- ・家庭教育の重要性を再認識し、指導を徹底すること。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成25年9月12日)

- ・市の人口動態を把握し、それに伴う保育園・学童保育所の整備。
- ・待機児童ゼロを目指すこと。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成26年度合志市経営方針(平成25年10月7日)

1. 継続して待機児童対策に取り組む。
2. 学童保育施設の充実を図る。
3. 地域と連携した子育て支援を行なっていく。
4. 家庭教育の重要性の啓発を行なう。

施策マネジメントシート3(24年度目標達成度評価)

基本事業名		56 子育ての経済的負担の軽減				基本事業担当課		子育て支援課	
対象		子育て世帯				意図		経済的負担の軽減を図れる	
成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	子育てのための経済的負担 が大きいと感じる世帯の割合	%	(成り行き値)目標値		(50.6) 50.0	(50.6) 49.5	(50.6) 49.0	(50.6) 48.5	(50.6) 48.0
			実績値		50.6	62.3	57.6		
B			(成り行き値)目標値						
			実績値						
C			(成り行き値)目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A:こども医療費助成を平成21年7月診療分から小学校6年生まで拡大したこと、平成22年度から子ども手当(0歳から中学3年まで1人当り月額13,000円)の支給が開始され、平成23年度から満額の1人当り月額26,000円(現時点では確定していない。)に引き上げされることを考慮しても、国の経済情勢に影響されることが大きいのを踏まえると、現状ではそう大幅な好転は見込めないと判断し、平成23年度の50%に比べ、平成27年度目標値を48%と設定した。

8 基本事業の24年度の振り返り(目標達成度評価)と26年度に向けての課題

・平成23年度からこども医療費の合志市内の医療機関において、外来のみではあるが現物給付に変更したことにより負担感が減少した。

基本事業名		57 子育てと仕事の両立支援				基本事業担当課		子育て支援課	
対象		就学前児童世帯、小学校世帯				意図		安心して仕事ができる	
成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	保育所に入所している児童数／ 保育所の入所を必要とする児童 数×100	%	(成り行き値)目標値		(92.0) 98.0	(91.0) 100.0	(90.0) 100.0	(90.0) 100.0	(90.0) 100.0
			実績値		93.0	93.7	92.6		
B	子育てのために仕事に出られない、 希望する仕事につけない、家 業が思うようにできないと答えた世 帯の割合	%	(成り行き値)目標値		(12.0) 12.0	(12.0) 11.8	(12.0) 11.6	(12.0) 11.4	(12.0) 11.2
			実績値		12.1	17.1	16.1		
C			(成り行き値)目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A:既設保育所の定員増と共に認可保育所の新設による定員増を図ることにより、平成24年度に100%を予想し、その後の児童数等は微増、横ばい、微減で推移すると考え、平成27年度目標値も100.0%で維持できるとして設定した。
B:保育所整備、学童クラブ整備、ファミリーサポートセンター事業や病後児保育などを充実させる事で微減で推移すると考え、平成27年度目標値を11.2%として設定した。

8 基本事業の24年度の振り返り(目標達成度評価)と26年度に向けての課題

・平成24年4月に定員増を行い、待機児童の解消を図ったが、潜在的な保育に対する需要を掘り起こし、年度末には待機児童が170人に上った。
・待機児童解消のため、認可外保育施設活用事業や家庭的保育事業に取組んだ。
・一時保育・病児・病後児保育・夏休み一時預かり事業等を実施し、仕事と子育ての両立支援を行なった。

基本事業名		58 地域における子育て支援				基本事業担当課		子育て支援課	
対象		地域、事業所、学校等				意図		地域で子どもを見守っている	
成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	地域のボランティア数(子ども110 番の家の数,子供会の組織数, 子育てサークル,母親クラブ)	件	(成り行き値)目標値		(330) 340	(330) 345	(330) 350	(330) 355	(330) 360
			実績値		330	339	348		
B	子育て支援応援事業所数	事業所	(成り行き値)目標値		(42) 45	(42) 48	(42) 51	(42) 54	(42) 57
			実績値		42	42	42		
C	子どもの安全に不安を感じ る世帯の割合	%	(成り行き値)目標値		(31.9) 31.5	(31.9) 31.0	(31.9) 30.5	(31.9) 30.0	(31.9) 30.0
			実績値		31.9	39.2	37.1		

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A:地域や市内事業所、市民が一体となって子どもを見守り育てて行く地域子育て力の強化や防犯意識の高揚、子育てサークルなどの団体を育成支援する事で、地域ボランティア数も増加すると予想し、平成27年度目標値を360件と設定した。
B:市内事業所等の子育て支援に対する意識啓発、登録を推進することにより、今後も登録数が増加すると予想し、平成27年度の目標値を57事業所に設定した。
C:子ども見守り隊(安全パトロール隊)など地域ぐるみの取組みを強力に支援することで、不安を解消できると考えるが、現状値でも高い水準にあると考えられるので、平成25年度までは少しは向上するところで設定し、平成26年度からは30%を維持し、平成27年度も同様の目標値を設定した。

8 基本事業の24年度の振り返り(目標達成度評価)と26年度に向けての課題

・昨年度に引き続き登下校時の安全パトロールを実施した。

施策マネジメントシート3(24年度目標達成度評価)

基本事業名	59 相談支援体制の充実	基本事業担当課	子育て支援課
-------	--------------	---------	--------

対象	子育て世帯	意図	子育ての不安を解消できる
----	-------	----	--------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	件	(成り行き値)目標値		(2,620) 2,600	(2,620) 2,590	(2,620) 2,580	(2,620) 2,570	(2,620) 2,560
		実績値	2,627	4,511	2,745			
B	件	(成り行き値)目標値		(2,400) 2,450	(2,400) 2,500	(2,400) 2,550	(2,400) 2,600	(2,400) 2,650
		実績値	2,385	4,150	3,608			
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A:、相談支援体制の啓発、充実を図ることにより相談件数は増加すると思われるが、子育て支援事業・相談支援体制の充実により、問題解決が図られ、件数の減も考えられることから、相対的には微減すると予想し、平成27年度目標値を2,560件と設定した。
B:核家族化の傾向は今後も続くことが予想され、ファミリーサポート事業の充実を図ることで、利用件数は増加すると考えられるので、平成27年度目標値を2,650件として設定した。

8 基本事業の24年度の振り返り(目標達成度評価)と26年度に向けての課題

- ・虐待防止のために実務者を対象とした研修会を開催した。
- ・児童虐待防止の街頭キャンペーンを実施し、虐待防止の啓発を行った。

基本事業名		基本事業担当課	
-------	--	---------	--

対象		意図	
----	--	----	--

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A		(成り行き値)目標値						
		実績値						
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

8 基本事業の24年度の振り返り(目標達成度評価)と26年度に向けての課題

基本事業名		基本事業担当課	
-------	--	---------	--

対象		意図	
----	--	----	--

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A		(成り行き値)目標値						
		実績値						
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値			37.1			

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

8 基本事業の24年度の振り返り(目標達成度評価)と26年度に向けての課題